その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

農事組合法人　杉っ子

対応してくれた人の名前　：　石原みちゑ　原 小夜子
調査員　　：　洲崎燈子　浅田益章
レポート作成者　：　浅田益章
取材日　　：　2016年10月20日
取材場所　：　長野県下伊那郡根羽村1855（農産加工施設、旧根羽村保育所）

活動内容（「山村再生担い手づくり事例集」より）

根羽村の40～70代の主婦15人ほどの団体で、原木椎茸を使ったきのこおこわ、よもぎの草大福、米粉を練ったからすみ、ねぎ味噌たれの五平餅など、地元の素材を活かした手作りの農産加工品を生産し、自家製の野菜とともに村内外のイベントで販売している（主に週末）。岐阜女子大学の学生との共同で、森林組合が根羽杉で作った弁当箱に根羽の山の幸いっぱいのお弁当を入れた「根羽のはこいり娘」も開発した。村内のイベントや仏教行事での食事の提供も行っており、250人分の食事を作ることもある。

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

（1）「ねば杉っ子餅」から「農事組合法人　杉っ子」に店舗名変更した。
変更理由：
①食品衛生責任者設置による食品衛生法許可の店に
（菓子製造業営業）
食品衛生責任者：稲垣悦子
②餅以外の商品メニュー充実
・根羽村産椎茸を使ったきのこおこわ、
・地元産よもぎの草大福、
・米粉を練ったからすみ、
・ねぎ味噌たれの五平餅など
③売り上げ増加による税金対策。

取材風景

（2）売り上げ増加。順調でやる気満々、楽しくみんなでやっている。
①根羽村の外からの引き合いが増えた。
②地元の食材にこだわり地産地消のお菓子を手作りで提供
③村内の主婦が末永く安心して働ける職場として仕事場や
各家庭の理解と支援をうけている。
④リーダー役である石原さん（理事長）、原さん(理事）が明るく楽しく引っ張っている。
⑤女性のチームパワーが発揮されてポジテイブな活動となっている。

（3）持続可能なビジネスプランができている
高齢化が進み、後継者が不足する中でみんなが頑張れる仕組みとしている。
①「地産地消で生涯現役」のキャッチフレーズを心がけている。ゆるぎない。
②顔の見える隣近所の村民の働く場としてミライへのビジョンもしっかりとしている。
良い食品を作るうえでお客様の声をすぐに生かせるので小量生産の良さが生かされている。
③根羽村で昔ながら使っていた石臼や木型、木箱などを利用している。
村の伝統食品として付加価値を高めることができる。
④販売している食品は生ものが多いので難しいが、その条件をクリアする工夫や知恵をみんなで考えている。

地域の変化

根羽村の食材を使った地産地消の食品の人気が出ている。高齢化が進む中で後継者の確保は難しいが、高齢者にもできるような体制を作ることを進めている。元気なうちは働きたいというお年寄りも増えている。
また、生もののお菓子が主体であるが根羽村外からの注文も増えている。食品安全に留意して注文にこたえるようにしなければいけない。注文があることはよいことである。

これからやろうとしていること

根羽村の村民が末永く、やりがいと楽しみをもって働ける場、環境、支援体制を村ぐるみで理解し応援してもらえるように心がけている。今のままを地道にやれば期待に応えれる。そう感じます。
食を通じて、村民のふれあいの場を提供してゆきたい。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください

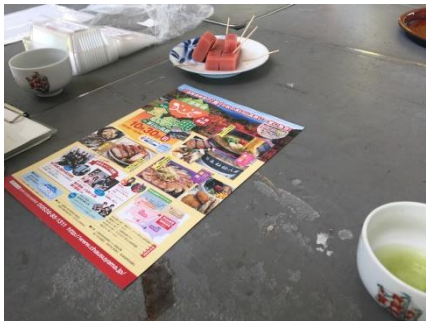
地産地消の食事、お菓子作りの場づくり事例は高齢化時代における食・農・健康という大事な目的に合致する良い事例である。どこの地域でも同様なことができると思う。実際それぞれのやり方でやっているので交流するのもいい。

写真

① 農産加工施設所（根羽村）

② 注文数記載のカレンダー

③ 食品営業許可の店



④ 食の祭典イベント出店ちらし

⑤ 地元産よもぎの草大福

⑥ 地元の素材を生かした手作りの農産加工品を仲良く。